

世界は想像以上に残酷だと思ふときがある
でも

想像以上に人は

どんな時でも生き抜く力を持っている

自分らしく生きる

ありのままに生きる

ともに生きる

その声を届けたい

きっと世界が変わるだろう

A Life 生きる

能登半島地震復興支援チャリティ講演会

2026

10/11 (日)

13:30~16:10

開場 13:00

📍 高山市民文化会館 小ホール

チケット

1,000円

学生無料

参加
予約



※ご予約は、QRコードまたはお電話で。
高山市民文化会館でご購入も可能。
収益の一部は「能登半島地震復興義援金」
として寄付されます。

ゲスト

益田大輔先生 (精神保健指定医 専門医 産業医、政治家)

駒屋憲一先生 (ひだ在宅クリニック、ひだ在宅クリニック丹生川出張所 院長)

高橋絵麻さん (乳がんサバイバー、ヨガインストラクター、講演家)

大間圭介さん (元石川県警警察官、能登半島地震のご遺族)

タイム
テーブル

13:30 開演

13:40 フレゼン 益田先生、がんサークルOwls 三井

14:00 第1部 【講演】

高橋さん『生きるってなんだろう ~不登校・乳がん
ゆらぎの中で“わたし”を取り戻していった話~』

途中休憩あり

駒屋先生『地域で暮らし、地域で生きる』

大間さん『家族と共に生きる』
ギター弾き語り

15:40 第2部 登壇者トークセッション

16:10 閉会

主催 がんサークルOwls

代表 三井 祐子

📞 090-7697-3783

後援: 高山市/飛騨市/中日新聞社

もしもがんになったら…

もしも大切な人を亡くしたら…

皆さんは想像してみたことがありますか？

いまある日常は決して当たり前ではありません

病気や障害を持ってしまうこと

突然大切な人を亡くしてしまうこと

それはすべての人が経験する可能性があり身近なこと

だからこそ当事者だけが理解し合い、

支え合う社会ではなく

誰もが自分を大切にし、

すべての人に寄り添うことができれば

きっと社会は変わるはず

「生きる」

生きるには一言で伝えられないほどの

深い意味を持っています

辛い経験や困難を乗り越えてきた当事者の声

そしてその生きるを支え、寄り添う支援があること

この講演会が、誰もがどんな時にも寄り添える

そんな社会を作るきっかけとなりますように…

講演会登壇者

精神保健指定医
専門医 産業医
政治家
益田 大輔

福岡市出身、愛媛大学医学部入学と同時に世界劇団の旗揚げに参加。6年間、海外公演やテント芝居など演劇活動に没頭した。卒業後、演劇と精神医療の類似性に惹かれ、精神科医を志す。2001年より高山に赴任。25年間、精神科医としてさまざまな生きづらさに向き合う中で、病理は個人ではなく、社会にあると知る。「社会を変えなければ救えない命がある」と直感し、2018年高山市長選に挑戦。2023年からは高山市議会議員を務めた。臨床と政治、当事者と専門家など、スキマをつなぎ、より良い社会を探究する活動をしている。



ひだ在宅クリニック
ひだ在宅クリニック 丹生川出張所
院長
駒屋 憲一

愛知医科大学で消化器外科医として勤務中、飛騨地域の医師不足から当直医の派遣依頼があり、出身地でもある飛騨へ出向くことになる。地元に戻って地域医療に貢献し、患者さんと最期まで長く関わる在宅医の仕事に興味を持ち、在宅医療に特化した飛騨初のひだ在宅クリニックを開業した。今年度から常勤医師3名体制となり、飛騨市・高山市の広範囲に渡り訪問診療を行っている。少子高齢化と過疎化が進む飛騨地域において、大きな役割を担っている。人は他者から必要とされることで幸せを感じる、を信念に持ち患者さんとそのご家族に最期まで寄り添う診療を行っている。限られた時間を患者さんと家族にどのように生きてもらうか、病院では出来ないこと、在宅だから出来ることを常に考えながら行動している。



乳がんサバイバー
ヨガインストラクター
講演家
高橋 絵麻

2015年10月、34歳で若年性乳がんステージIIIaと診断。1か月後にはSNSで病気を公表し、笑顔のスキンヘッド姿とともに「しこり触ってねキャンペーン」をスタート。自分の身体と心に素直になり、「自分の生きる」と向き合ってほしいという想いを込め、「生きるを伝える写真展」を全国各地で開催。2025年、肝臓多発転移によるステージ4が判明。現在も治療を続けながら、乳がんや不登校の経験をもとに、全国各地で命の授業や講演活動を行っている。
Yoga・Pilates Studio「Living space Atha.」主宰。



元石川県警察官
能登半島地震で
妻子ら9名を亡くしたご遺族
大間 圭介

石川県珠洲市生まれ。現在は石川県金沢市在住。能登半島地震で石川県珠洲市にある妻の実家が土砂崩れに巻き込まれ、妻子ら9人を亡くした。2026年3月20年間警察官として勤務してきた石川県警を退職。震災後2年間、喪失感に耐えながら生きる意味を模索した。ずっと下を向いて生きていたら家族に申し訳ない。自分が人生を終えるとき、お父さんとして、夫として「頑張ったよ」と家族に言えるような人生を歩んでいきたいと、新たな第一歩を踏み出した。現在は福祉施設などでギターの弾き語りや、講演活動などを行い活躍中。



悩みを打ち明け、相談できる場を作る



がんサークル
Owls

がんサークルOwls(オウルズ)では、飛騨地域でがんサバイバー、そのご家族を対象とした患者会や講演会を開催しています。がんになったことは、決して特別なことではありません。がんになっても自分らしい人生を送ることはできます。ひとりではありません、仲間と一緒に一歩踏み出してみませんか！
✉ yu.mu.pu.1014@docomo.ne.jp